

第58回日本小児保健協会学術集会 ミニシンポジウム1

病児・病後児保育の現状と課題

大学における病児保育施設の果たす役割

川畑 智子¹⁾, 片岡 仁美¹⁾, 伊野 英男¹⁾, 別府 治恵¹⁾
倉橋 陽子¹⁾, 岩瀬 敏秀¹⁾, 佐藤 勝¹⁾, 黒坂 祐子²⁾
嘉数 千恵²⁾, 辻 仁美²⁾, 林原 愛²⁾, 岡 真美²⁾

岡山大学は平成21年10月に国立大学法人では5番目の設立となる職員や所属する学生を対象とした病児・病後児保育施設「ますかっと病児保育ルーム」を岡山大学病院内に開設した。その立ち上げは主に平成19年度文部科学省社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム（医療人GP）に採択された「女性を生かすキャリア支援計画」の活動（現在：医療人キャリアセンター）の一環として行い、学内保育施設の保護者によるワーキンググループや岡山大学ダイバーシティー推進本部の次世代育成支援室と協働して準備を進めた。同施設は医療人支援にとって必要不可欠な施設であるとの認識から、開設後も医療人キャリアセンターが引き続き運営に深く関わっている。

開設準備では医療者と保護者、利用する病児が満足できる保育施設づくりに邁進した。病児に関わる小児科医師、看護師、保育士と共に施設設計、運営基準の作成、病児登録の電子化等を行った。また、シミュレーション教育を活用した医療知識の習得や保護者への対応などを含めたスタッフ教育に注力し、職員には子育て関係の講演会の開催やポスター掲示等で宣伝を行った。開設後も定期的にスタッフ会議を行い、実際に発生した問題の早期解決を図るなどきめ細かくマネジメントを行っている。その効果か一日利用者数は速やかに純増した。

開設後一年目には事前登録者の保護者を対象にアンケートを施行し、病児保育ルームのあり方や職場にお

ける存在意義について質問した。平成22年10月に学内便でアンケート用紙を配布し、事前登録者159名の保護者110名を対象とした。調査は自記式の質問紙にて行い、無記名で回答を依頼した。配布数110に対して、回収数は77人（回収率70.0%）であった。結果は、実際に利用したことがある人は36人（47.3%）であった。利用した人に限定した設問では、初回は預けるのに抵抗があるか、との問いに「とても、ややあてはまる」と答えた人は12人（32.4%）であったが、一度預けると29人（80.5%）は抵抗が減ったと回答した。当施設のスタッフの対応や保育の内容に対して「とても、やや満足している」と回答した人は36人（100%）であった。登録者全体への設問では、病児保育室が職場に開設したことによって安心して働けるようになったか、との問いは「とても、ややあてはまる」と回答した人は60人（77.9%）で、職場に長く勤めたくなったか、については「とても、ややあてはまる」と回答した人は43人（50.7%）であった。岡山大学の病児保育施設やスタッフに対する保護者の満足度は非常に高い結果となった。病児保育施設は、職員が子どもを持ちながら同職場で働き続けるためのセーフティーネットとなり得る可能性が示唆された。今後も医療人キャリアセンターは次世代育成の風土を育みながら多職種連携を図り、岡山大学病児保育施設を成長させていきたいと考えている。

1) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座医療人キャリアセンター MUSCAT

2) ますかっと病児保育ルーム

川畑智子 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座医療人キャリアセンター MUSCAT

〒700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町2-5-1

Tel/Fax : 086-235-6963